



卒業を迎える高校3年生と保護者の皆様にお祝いを申し上げます。残り僅かな高校生活で新生活に必要な準備をしっかりとし、それぞれの場で輝くことができますように、教職員一同お祈りしております。



2月の予定



		行事	弁当
1	水	中2中3 Sr.有田宗教講話(1限) 母の会パン販売(12:25~13:10) 高3 Sr.有田宗教講話(5限)	要
2	木	高1 Sr.有田宗教講話(1限) 高3卒業研究代表者発表会(6限) 高3送別会(7限)	要
3	金	高3午前授業	※
4	土	高校卒業式(ホテルライフオフトにて) (高3のみ出席) 事務室閉鎖	不要
5	日		
6	月	高1オンライン国連研修①	要
7	火	高1オンライン国連研修② 高1UNHCR協会天沼様講演会(5,6限)	要
8	水	高1オンライン国連研修③ 職員会議(15:40~)	要
9	木		要
10	金		要
11	土	建国記念の日	
12	日		
13	月	高2ケンブリッジ英検(全日) 中3校長面談(放課後)①	要
14	火	放送朝礼 母の会聖書サークル(10:30~Sr.田口) 中3校長面談(放課後)②	要
15	水	全校Sr.ダフネ講演会(6限) ※課題研究ミーティング⑧に該当 NY国連研修有志発表会(放課後 聖堂にて) 中3校長面談(放課後)③	要
16	木	中3卒業研究発表会(2~5限) 高1高2小論模試(7限) 中3校長面談(放課後)④	要
17	金	スキーDay 中3校長面談(放課後)⑤	※
18	土	サタデープログラム②(韓国語なし12/27実施済) 中3校長面談⑥	
19	日	第3回英検二次A	
20	月		要
21	火	中2校長進路面談(放課後)	要
22	水	学年末考査時間割発表(終礼) 職員会議(15:40~)	要
23	木	天皇誕生日	
24	金	中2校長進路面談(放課後)	要
25	土	中2校長進路面談	
26	日	3回英検二次B	
27	月		要
28	火		要

Congratulations!!

- ◎ 令和4年度明るい選挙啓発作品展 書写
銅賞 中3 佐々木友里
- ◎ 北海道放送主催 第50回中学作文コンクール
入選 中2 佐良土美胡
- ◎ 第75回札幌市中体連スキー選手権大会 アルペン女子GS
4位 中3 石丸り子
8位 中2 内海玲依羅
- ◎ SAJ公認アルペンユース競技会第15回北海道1-7選手権大会
アミック・タキスポ カップ 女子SL
6位 中3 石丸り子
- ◎ 第5回持続可能な世界・北海道高校生コンテスト
 - ・ANA 総研 世界に羽ばたけ賞
「子どもが子どもらしく生きるために~子ども兵の現状~」
高3G 川田澄果 小宮柚 渡辺夢合愛
 - ・FMアップル地域の安全・安心・活性化賞
「防災意識向上へ。高校生と繋ぐ自然災害と共に生きる住み良い街へ」
高3G 植木望結 大橋茉莉乃 福本あめり
 - ・フィジー共和国名誉領事賞
「外国人にとって住みやすい国、日本を作る」
K3G 石島そら 大萱生琉衣
 - ・優秀賞(実践活動部門)
「生理の貧困と負担を減らそう」
K3G 山本奈央子 K3SS 菅原花未
- ◎ 第55回北海道中学校スキー大会アルペン競技
女子GSL 7位 C3 石丸り子

☆ ※の日は、必要な方は昼食をご用意ください。

☆ 行事予定は暫定のもので、大きな変更がある場合には、一斉メールや学校ホームページ等でお知らせいたします。

国際文化・環境科学ミーティング

「カンボジア事業報告 2023年」

1月18日(水)は、札幌市で排水処理の会社を営んでいる横田岳史さんのお話を伺いました。横田さんは「人工湿地」という技術で、廃水処理インフラの新しい形を日本そしてカンボジアの仲間たちと模索しています。また、カンボジアの孤児院の子どもたちとの出会いから、孤児院の支援団体の設立にも参加されています。

地域に住む人々のために、企業に、個人にできることは何かを考える貴重な時間となりました。



梅干し弁当募金

1月25日(水)に行われた今年度最後の梅干し弁当募金は、西アフリカ・シエラレオネのルンサという町にあるグアダルーベ聖母女学園(OLG 学園)への教育支援・給食支援を行っている「ともに歩む会」で役立てていただくために行いました。この学校の立ち上げに参加し、その教育に生涯を捧げた Sr.根岸の意思を継ぎ、今も2人のシスターが現地で奮闘されています。みなさまのご協力により、**総額 30,040 円**を送金することができました。



今月のこころのことは

「確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」

(Ⅱコリント6:2)



55回生が卒業します。ウクライナ侵攻の年の最上級生として、心を痛み、祈りを深めた一人ひとは、祈りを呼びかけに変え、支援活動に取り組みました。

グローバルイシューズの課題で

取り組んだアクションプランもそれぞれのプランは実に独創的で工夫に富み、「持続可能な世界・北海道高校生コンテスト」でも、応募作すべてが入賞し、頼もしい限りです。

また、コロナ禍に加えて、耐震基準の上がった体育館が使用できない中、様々に工夫して諸行事を成功させてきました。12月には、カナモトホールで、司教様をお迎えし、創立以来60年の感謝を込めたクリスマス・ミサで、英語暗唱、タブロー(聖劇)や合唱、演奏をお捧げた時も、高2生以下、今回が本校での最後のクリスマスになる中3生を含む全校生徒一人ひとりが、それぞれ最高の力を発揮できるように支えました。

見守る私たちにとっては、全校生徒の見事な姿に涙があふれ、合掌する恵みの時となりました。「確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」という声を聴いたような気がしました。

ミサの初めに、灯を掲げて“O come O come Emmanuel”(「人と共にある神、来て下さい。’)と歌いながら入場した55回生の姿を想い、どこにあっても、どんな殺伐とした「無関心の闇」の広がる中にあっても、「みこころの灯」を掲げて、「恵みの時」を照らし出す存在でありますようにと祈ります。

[チャプレン Sr.田口保子]

